

Ⅲ 今回のプロジェクトにより得られた知見

関東インフラプロジェクト・アーカイブス(No.8)では、全8件のプロジェクトをとりまとめています。それぞれのプロジェクトの事例における関係機関・事業との調整、自然環境・周辺環境等への配慮、コスト縮減・工期短縮について以下に整理し、今後に活かすべき知見について記載しました。

今後のプロジェクト実施にあたっては、これらの知見をふまえ、一層適切・確実・迅速に推進していきたいと考えます。

1. 関係機関・事業との調整、地域の活性化等について

以下のとおり、プロジェクトの実施にあたり、地域や関係機関との調整、連携等を図った事例がありました。

・公園事業において、田園風景や里山風景を保全・活用し、地域との協働を通じた希少動物の生育環境の保全や農業などの伝統・文化に触れる機会が提供されることで、地域が持つ豊かで貴重な伝統等財産の継承、地域活性に寄与しました。

・官庁営繕事業において、地方公共団体等関連機関と連携し、既存施設を合築することで業務効率の向上と国公有財産の有効活用を図ることができるとともに、利用者の利便性が向上しました。

・河川環境整備事業において、護岸や管理用通路等を整備し、地方公共団体が公園等の施設整備を行うことで来訪者が増加したほか、河川敷の見通しが良くなり、安全、防犯上の効果が発現しました。

・バイパス道路整備において、地域からの早期開通要望等により、機能が早期発現できるよう段階整備が進められ、交通状況の改善のみならず、沿線の企業立地・団地拡張がさらに促進され、地域発展に寄与しました。

・道路拡幅事業において、他事業と連携することにより、国道の拡幅と併せて交差道路の改良が実施され、幹線道路のアクセス経路が単純化されました。

・港湾整備事業において、港や自動車道の整備が企業の新規立地や増産に大きく寄与し、内陸部の関連する自動車産業等、広く効果が波及し、地域発展に寄与しました。

【知見】

・今回のプロジェクトでは、公園事業、官庁営繕事業、河川環境整備事業、道路事業におけるプロジェクト実施にあたり関係機関や他事業との連携等により、効果的・効率的に事業実施できた事例が多く見られました。

一方で関係機関と密に連携を図り、スケジュール管理を徹底するなどの連携強化により、進捗の一層の円滑化を図ることが出来た可能性があります。

これらの事例は今後の参考になると考えます。

2. 景観・環境保全等への配慮について

以下のとおり、プロジェクト実施にあたり、環境へ配慮した事例がありました。

・公園事業において、元の棚田地形を活かしながら、地形改変を最小限にした園路の整備や、外周柵も景観に配慮した竹柵や生け垣など、里山景観に配慮した整備を実施しました。

また、野生動物との共存に配慮し、注意看板や作を設置しました。

・官庁営繕事業において、屋上に太陽光発電設備を設け日中の電気負荷を削減する取り組み、雨水利用・屋上緑化・木材の利用推進など資源の有効活用を図る整備を実施しました。

また、旧市役所庁舎の特徴であるバルコニーや手すりの意匠を継承するとともに、周囲の八幡山公園や文化公園の豊かな緑の環境と調和する景観に配慮した取組を実施しました。

・河川環境整備事業において、水辺利用のための整備による自然植生の変化をモニタリングし、環境への大きな影響が無いことを確認しました。

【知見】

・今回のプロジェクトでは、公園事業、官庁営繕事業、河川環境整備事業において、里山の景観・自然環境への影響に配慮する事例、自然の資源を活用して環境に配慮する事例がありました。

これらの良好な環境を守る事例、資源を活用した地球温暖化の防止・循環型社会の形成事例は、今後同様の事業における参考になると考えます。

3. コスト縮減、工期短縮、作業員の負担軽減について

以下のとおり、プロジェクト実施により、コスト縮減や工期短縮、作業員の負担軽減が図られた事例がありました。

・官庁営繕事業において、関連機関と共有する部分を専有割合に応じて両者で負担することで、個々に建設するよりも費用を抑えました。

・河川改修事業において、個別であった5台のポンプ操作が監視室内での集中監視・操作となったことで作業効率が上がり、機械操作による信頼性が向上しました。

また、スクリーンのゴミ除去作業が自動除塵機になったことにより、人力では取り切れなかったゴミのスクリーンの目詰りによるポンプ緊急停止の恐れが軽減され、作業員の負担が軽減し、安全性も確保されました。

・バイパス道路整備において、沿道の開発状況を踏まえた遮音壁の設置計画・路面排水施設の構造・舗装厚の見直しなどを実施し、コストを縮減しました。

・港湾整備事業において、最短での工期設定について検討を行った結果、ケーソンを海上打設することなく、全て陸上製作とし、大型の起重機船で据付を行うことで工期の短縮が可能となり、早期に完成しました。

【知見】

・今回のプロジェクトでは、早期供用の要望や施工時の現場状況を踏まえて計画を見直し、コスト縮減、工期短縮に至った事例がありました。

これらの事例は今後同様の事業において参考になると考えます。

編集後記

今回のアーカイブス No8は、関東地方整備局で取り組んできた公園整備、官庁営繕、河川改修・環境整備、道路バイパス・拡幅整備、港湾整備、空港整備、官庁営繕など令和2、3年度までに完了した多様なプロジェクトを掲載しています。

プロジェクトの実施にあたっては、関係機関・事業との調整や連携等、環境への配慮、付加機能の確保等様々な工夫がなされています。

本誌は、今後、新たなプロジェクトに取り組んでいく方の参考となるよう、このような様々なプロジェクトで得られたレッスン、考察などをとりまとめたものです。作成にあたっては一般の方にもわかりやすいよう表現や体裁に気をつけるとともに、シリーズであることがわかるよう表紙のデザインなどこれまでの要素を残しています。

本誌の発行にあたり、朝倉委員長をはじめ関東地方整備局事業評価監視委員会の皆様方に多大なるご指導を賜り、大変感謝しております。事務局一同、ご協力頂いた皆様に御礼申し上げます。

本誌が、今後のプロジェクトに大いに役立つことを期待するとともに、一般の方にもご覧いただき、関東地方整備局の取り組みについて理解がいつそう深まることを願っております。

(2022.6 関東インフラプロジェクト・アーカイブス(No,8)編集担当事務局)

【関東インフラプロジェクト・アーカイブス(No,8)編集担当部局】

建政部 都市整備課	長野国道事務所
営繕部 調整課	横浜営繕事務所
河川部 河川計画課	利根川下流河川事務所
河川環境課	常陸河川国道事務所
道路部 道路計画第一課	宇都宮国道事務所
港湾空港部 港湾計画課	大宮国道事務所
企画部 企画課(事務局)	鹿島港湾・空港整備事務所

関東インフラプロジェクト・アーカイブス

2022年6月 初版第一刷発行

編集・発行：国土交通省 関東地方整備局 企画部企画課

TEL 048-601-3151（代表）

この冊子は再生紙を使用しています。

